



中 筵 博之 議員

## 地域おこしは 補助金より補助人

### 集落支援員の活用

【問】集落支援員設置事業の評価は。

【答】過疎地域という限られた中での活動であるが頼られる存在として評判はいい。

【問】支援員側と地域に対するサポート体制、支所や本庁との連携は。

【答】連携のなかで情報を共有し良好な体制が構築できている。

【問】地域おこし協力員との交流や意見交換の



飛騨山椒の収穫選別作業

場が必要では。

【答】一堂に会し情報交換する機会を設けて連携を図っている。

【問】国から財源手当される制度なのに集落支援員本人が受け取るのが月額5万円というのはどうか。

【答】活動度合いや範囲も広がる中、派遣元と派遣条件について協議している。

【問】若者定住の観点からも、積極的に制度を活用し増員を図るべきでは。

【答】地域振興計画に基づき実施しており、平成27年度以降は成果や課題を検証した上で考えていきたい。

### 買い物難民の支援

【問】買い物難民の現状

把握と将来予測は。

【答】直接的な調査資料はないが高齢化により増加が見込まれる。

【問】市の総合計画や過疎地域自立支援計画に盛り込むべき課題のひとつと考えるが。

【答】問題の位置づけや取り組みについて多くの行政課題と照らし合わせて検討したい。

【問】市として対策を講ずる考えは。

【答】公共交通や外出支援、ヘルパーや支援員の派遣、在宅福祉サービスなど、現在行っている施策の充実に努めたい。

【問】福祉の視点以外にも、雇用や地域政策など部局横断で取り組むべき課題では。

【答】各課で情報共有しながら取り組みたい。

【問】食料品の入手困難マップを作成し支援を図らないか。

【答】有効な判断材料として参考にした。



渡辺 甚一 議員

## 高山産のおいしい米 早期ブランド化へ！

### 観光の現況と今後について

【問】今年の観光客の入込み状況は。

【答】推定で今年は378万人。昨年と比べると、109%ほどに増える見込み。5年前の434万5千人と比べると87%になる。

【問】飛騨の里を体験型施設へ転換できないか。

【答】指定管理者と協議しながら、昔の人の知恵や文化に触れられるような取り組みをしたい。

【問】町の中心部にある観光施設を夜まで営業できないか。

【答】観光施設の夜間営業は、施設の考え方や採算性を検証して検討したい。

【問】北陸新幹線の金沢

までの開通や高山線開通80周年に向けての集客とイベントは。

【答】高山線の利便性向上に向けて、関係団体と要望活動している。様々なイベントを実施、高山のPRについて関係機関と協議中。

### 有利な米販売対策について

【問】今年の水稲生産農家数と面積・生産額は。

【答】生産農家数は3828経営体で作付け面積1834畝。生産額は見込みで17億円程度。

【問】全国食味コンクールなどで高い評価を受けているが、有利な販売に向けての取り組みは。



米の収穫作業

【答】食味に有利な地域環境で、農家間の品質格差是正を図り、良食味米生産を推進して、官民一体でPRする。

【問】高山産の米はおいしい事が実証済みだが、ブランド化して有利な販売ができないか。

【答】統一した栽培方法の普及・分別保管方法を検討するプロジェクトを立ち上げ、生産者と関係機関が連携して取り組みたい。